

## 乳がん検診とモノレール



所長 宮下 明

いままで婦人科の病気については触れてきませんでしたが、最近乳がんと診断された方が3人続き、皆さんにぜひ乳がん検診を受けていただきたく、書くことにしました。

乳がんは30代から増加し、40代後半から50代前半でピークを迎え、その後は次第に減少しますが、70、80代でもなりますので油断は禁物。最近の3人の方はご高齢のかたでした。なお第一親等（自分の親または子）で乳がんになった血縁者がいると、発生率は高くなります。身体のあちこちに転移してしまうと小林麻央さんのように死に至りますし、皮膚に浸潤すると臭いがひどいなど、辛くなることも多い病気です。

まず自己診断です。入浴の際に乳房をくまなく押して、小石のような塊がないかどうかをみてください。江戸時代には「がん」は硬いことから「岩（いわ）」と呼ばれていました。もし硬いしこりがあれば、診療所に来てください。しかし、しこりがあるからといってすべてが乳がんというわけではありません。例えば乳腺症・線維腺腫などでも、しこりの症状があらわれます。乳がんが疑われるときは適切な医療機関に紹介します。岩がなくても検診をうけましょう。巷には検査に使うマンモグラフィが痛いので嫌、という声があるのですが、受けた方に聞くと、「一瞬だから大丈夫、これで安心できると思うと頑張る価値はあるわ」（某看護師）と

か、「技師さんによってうまい下手はあるけど、戸塚病院の技師さんは痛くない」（太田師長）とか、「ごめんなさい、受けてない」（小林事務長）とか、いろいろな声があります。乳がん検診をする病院では必要に応じて乳腺エコーも行い、しっかり診断します。

鎌倉市では、40歳以上の偶数年齢の女性の方を対象に、マンモグラフィ検診を実施しています。市内の医療機関を受診する方法と、日曜日に市役所に来る検診車で受ける方法があります。詳しくは診療所までお問い合わせください。

湘南モノレールのピンクリボン号をご覧になった方も多いかと思います。ピンクリボン運動は、1980年代のアメリカで、乳がんて亡くなられた患者さんの家族が「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて作ったリボンからスタートした乳がんの啓発運動です。神奈川県では、検診受診率を引き上げ、乳がんて亡くなる方を少しでも減らしたいと、2008年湘南記念病院かまくら乳がんセンター長の土井卓子先生を代表として「ピンクリボンかながわ」が立ち上がりました。このモノレールを見たときに、乳がん検診のことをどうぞ思い出ししてください。